

論点整理を踏まえた対応方針(案)

令和7年12月
政策統括官付



分類	対応方針(案)
①データ整備・更新・オープンデータ化の運用のあり方について	<ul style="list-style-type: none">・ほこナビDPの活用を前提とした、データ整備・更新・オープンデータ化の運用方針を示すガイドラインに改定予定。既存の体制や既存の施策を有効活用できるような内容を盛り込むとともに、現地実証等を通じた事例を積み重ねながら、ブラッシュアップを図っていく予定。
②データの利活用方策について	<ul style="list-style-type: none">・バリアフリーマップ、バリアフリーナビへの活用や自動配送ロボット等のモビリティへの活用を前提としつつ、ODPTが開催している公共交通オープンデータチャレンジ2025において歩行空間ネットワークデータの新たな利活用事例創出に向け、国土交通省HP等でデータ公開を実施。・ほこナビDPの試行運用拡大による利活用促進。
③国による技術支援のあり方について	<ul style="list-style-type: none">・国による技術支援として、自治体や教育機関等向けの講習プログラムの作成を実施。講習プログラムの内容は、現地実証や自治体へのヒアリング等を行いながら作成。運用方針を示すガイドラインとともに、伴走型支援の方法についても検討中。・現地実証等を通じて明らかになったほこナビDPの課題については、機能改善に向けた検討を実施。
④普及展開に向けた事例拡大のための戦略について	<ul style="list-style-type: none">・バリアフリーマップやバリアフリーナビへの活用を前提とし、データ整備・更新・オープンデータ化の体制を様々なパターンで事例が作れるよう検討を実施。 <p>⇒優先して検討する対象事例をどうするべきか。 (提供対象は住民向け又は観光客向け、平常時又は災害時)?</p>



「公共交通オープンデータチャレンジ2025～powered by Project LINKS～」は、公共交通オープンデータを含めた様々なデータを最大限に活用した、地方での課題解決や新しいデータの利活用につながるアプリケーションやサービスを募集するものです。

公共交通オープンデータ協議会(会長:坂村健 東京大学名誉教授)と国土交通省にて2025年7月1日より開催しており、歩行空間における移動支援サービスで整備した、ランク区分に変換した歩行空間ネットワークデータの公開を実施。